

平成28年度

「大学医学部・医学会女性支援担当者連絡会」

日本医師会館 2016年12月2日



公立大学法人 和歌山県立医科大学医学部における 女性医療者・医師研究者支援の取り組み ～和歌山県医師会，県医務課との協働体制～

公立大学法人 和歌山県立医科大学

地域・国際貢献推進本部地域医療支援センター、医学部公衆衛生学講座併任

講師 北野尚美

本発表にあたってのCOI開示と謝辞

- 発表者に関示すべきCOIはございません。
- 本発表に先立ち、学内外の皆様から情報提供をいただきましたことをご報告申し上げます。

直接にご指導いただいた皆様に、深謝申し上げます。

- 和歌山県医師会 榎本多津子 理事
- 和歌山県立医科大学 山上裕機 医学部長
- 和歌山県立医科大学 井篁一彦 女性医療人支援センター長
- 和歌山県立医科大学 地域医療支援センター
- 和歌山県立医科大学 総務課，研究推進課
- 和歌山県庁 健康局医務課



本学医学部のアドミッションポリシー

和歌山県立医科大学医学部では大学の理念に基づき次のような人を求めています。

1. 科学的探求心と豊かな人間性・高邁な倫理観を有する人

医学を志す人には、旺盛な科学的探求心とともに豊かな人間性、高い倫理観が必要です。人としての豊かな感性、人間性を有し、ボランティア活動などを通じて社会との深い係わりがあるとともに、高い倫理観を有する人を求めます。

2. 医学を修得するための幅広い能力を有する人

医学の修得には、自然科学のほか人文・社会科学に関する学問の修得が必要です。そのため、自然および人間・社会についての幅広い知識と向学心、自分自身で問題を解決できる能力を持った人を求めます。

3. コミュニケーション能力及びリーダーシップを備えた協調性の高い人

医師には医学的知識とともに患者および家族、職場の同僚と十分コミュニケーションできる能力(情報の共有と良好な患者・医師関係が築ける能力)が必要です。医療人として自己研鑽ができ、自己の理念を持っているとともに協調性に優れ、リーダーシップを発揮できる人を求めます。

4. 地域医療に関心があり、国際的視野を有する人

本学は県民の医療を支えるとともに、国際的にも活躍できる医師を育成します。地域医療に関心があるとともに、国際社会でも活躍できるための能力を高め、積極的に地域社会および国際社会に貢献できる人を求めます。



華岡青洲を開学の祖と仰ぐ

「内外合一、活物究理」の精神



曼陀羅華(まんだらげ)



和歌山県立医科大学の学章



内外合一とは、「外科を行うには、内科、すなわち患者さんの全身状態を詳しく診察して、十分に把握した上で治療すべきである」という意味です。

活物窮理とは、「治療の対象は生きた人間であり、それぞれが異なる特質を持っている。そのため、人を治療するのであれば、人体についての基本理論を熟知した上で、深く観察して患者自身やその病の特質を究めなければならない」という教えです。

(和歌山県立医科大学附属病院紀北分院のHPから抜粋)

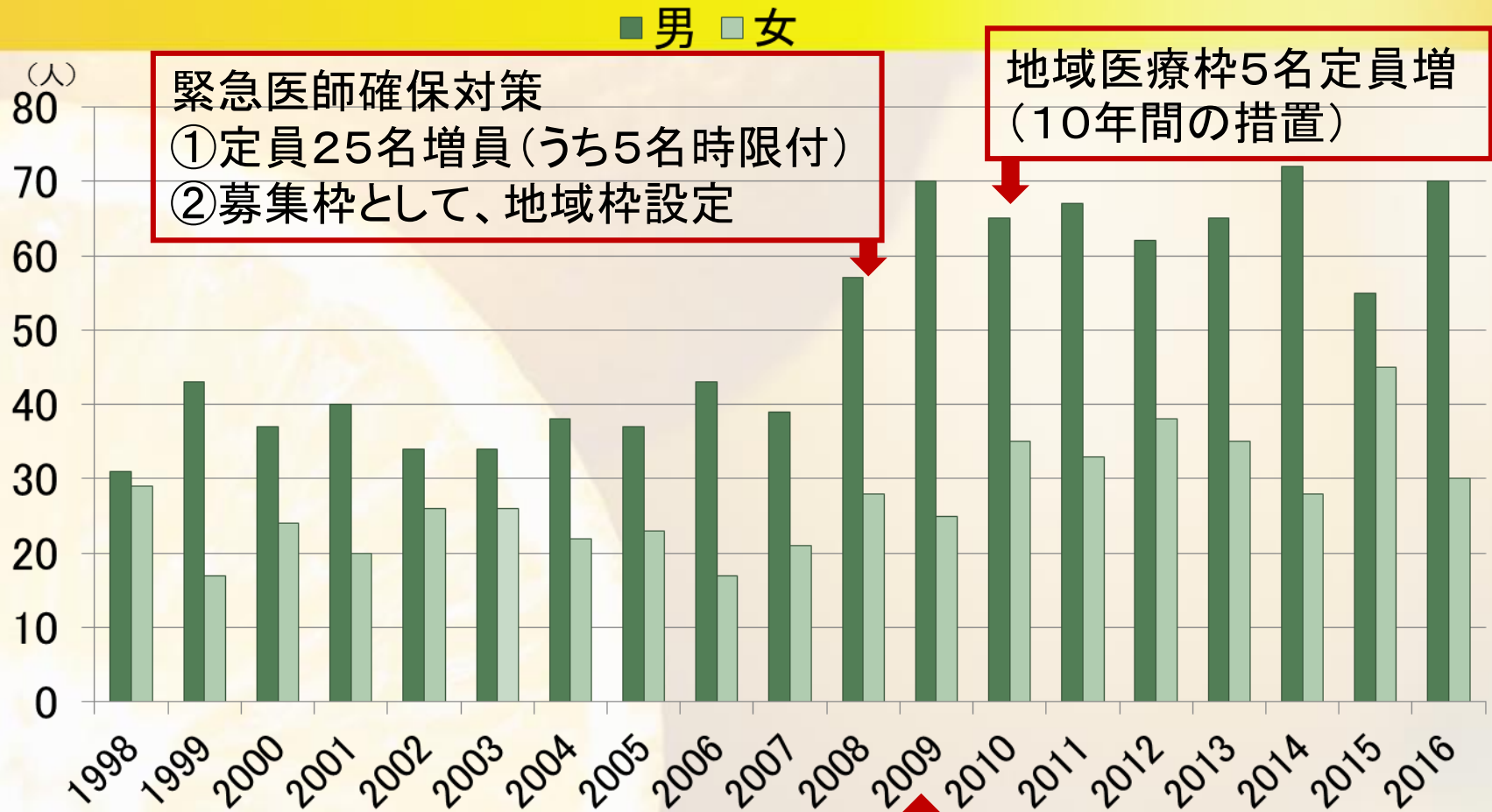


初代学長 古武彌四郎先生のお言葉

本も読まなくてはならぬ
考えてもみねばならぬ
しかし
凡人は
働かなくてはならぬ
働くとは
天然に親しむことである
天然を見つめることである
かくして
天然が見えるようになる



本学医学部の入学者数の推移



緊急医師確保対策

①定員25名増員(うち5名時限付)

②募集枠として、地域枠設定

地域医療枠5名定員増
(10年間の措置)

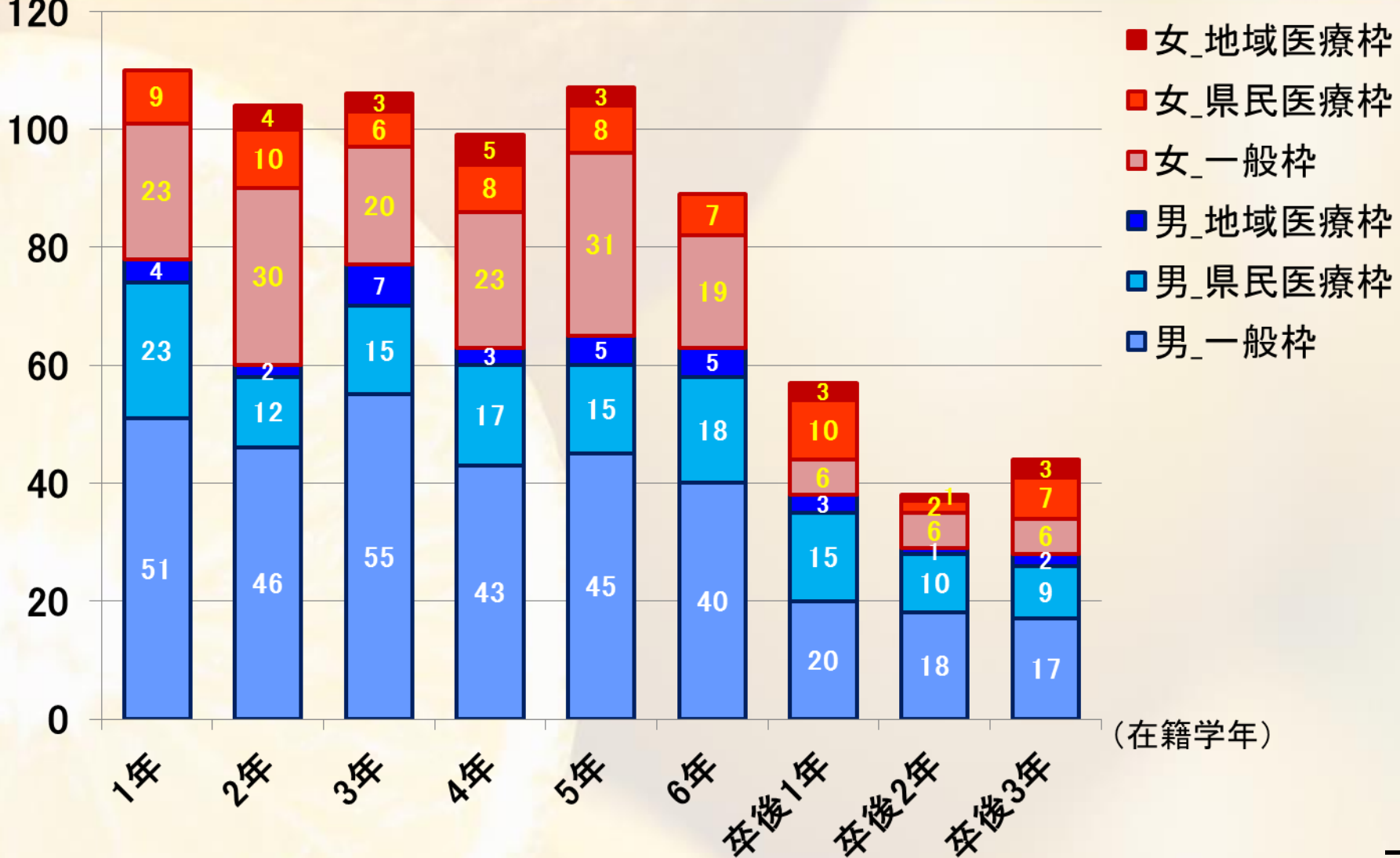
※募集定員 2007年まで60名
2008年 85名
2009年 95名
2010年現在 100名

国の「『経済財政改革の基本方針2008年』
を踏まえた平成21年度の医学部定員増」
定員10名増員



本学医学部の募集枠別入学者と性別 (2008年以降)

(人) 120



(在籍学年)



本学における女性医師支援の枠組

■ 本学医学部の使命

- ◆ 県民の健康を担う地域医療及び公衆衛生への貢献
- ◆ 地域の保健医療に携わる医師人材の育成
- ◆ 地域に根ざし国際的に活躍できる医師人材の育成
- ◆ 地域の特性を生かした臨床医学並びに基礎医学研究
- ◆ 最先端の治療法の開発と地域における包括的医療

- 県の保健医療計画と(女性)医師支援
- 臨床研究と基礎医学研究の推進



本学医学部における卒前の取り組み(1)

医学生への男女共同参画, ワークライフバランスの教育

■ 正課授業としての位置づけ

● 対象: 3年生全員 特別講義枠(人権) 2コマ

「男女共同参画社会の実現に向けて」

主な内容: DVについて

● 対象: 4年生全員 特別講義枠 2コマ

「医学生のためのキャリア入門～自分の未来をデザインしよう」

主な内容: 女性の家庭と仕事の両立 ワークライフバランス

- 「**医学生をサポートするための会**」が具体的な段取り担当
(和歌山県医師会 主催、日本医師会 共催)
- 本学教育開発センターが**医学部4年の正課**として位置づけ

本学医学部における卒前の取り組み(2)

国際的視野, 研究開始



■ 学部生に対する短期海外留学支援

● 基礎系研究室配属期間中(約2か月間)

◆ 対象: 医学部3年生

◆ 大学間国際交流の協定に基づいて海外で基礎研究

● **女性で、男性よりも、希望する割合が高い**

● 臨床実習期間中(約1か月間)

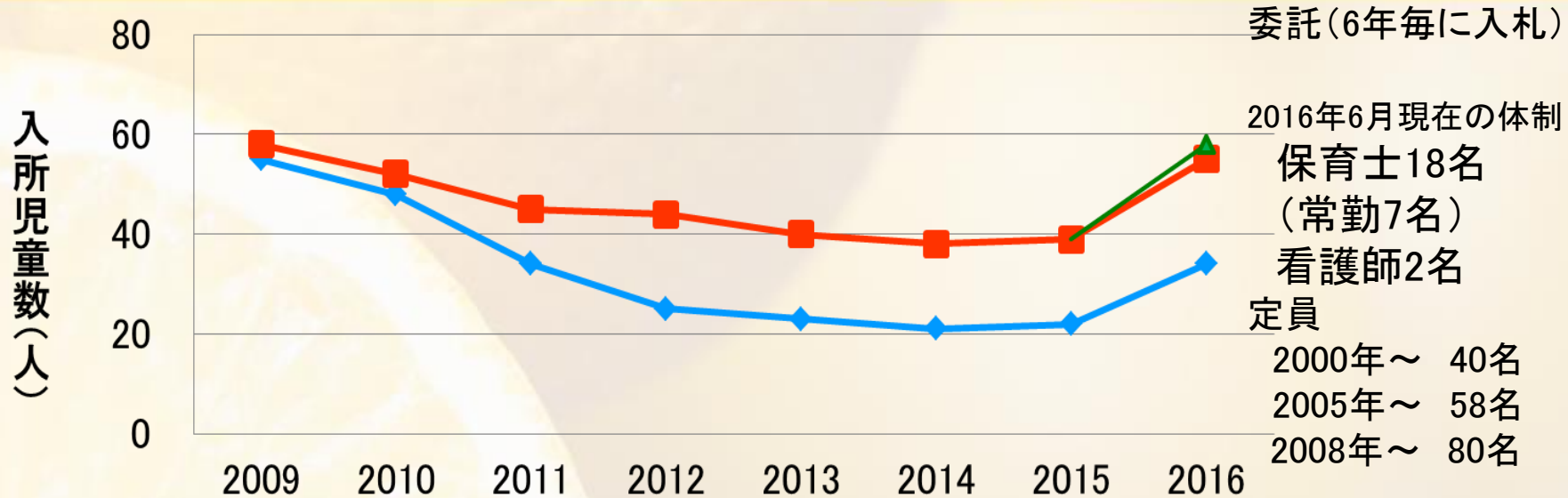
◆ 対象: 医学部5年生

◆ 大学間国際交流の協定に基づいて海外で臨床実習

● **女性で、男性よりも、希望する割合が高い**



本学附属病院における(女性)医療者支援 和歌山県立医科大学附属病院 託児施設(クレヨン保育園)



親の職種	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
	4月	4月	4月	4月	4月	4月	4月	4月
▲ 医療技術職員	0	0	0	0	0	0	0	3
■ 医師	3	4	11	19	17	17	17	21
◆ 看護師	55	48	34	25	23	21	22	34

- 2016年度～ 医学部基礎系と保健看護学部教員にも拡大(別に定める基準で運用)
- 2012年度～ 病児保育を実施
- 2008年度～ 初期臨床研修医と臨床系学内助教(後期研修医等)に対象拡大



和歌山県医師会と協働した女性医師支援(1) 初期臨床研修医に焦点を当てた事業(2012年度～)

- 新臨床研修医ガイダンスで県医師会が講義
- 県内施設合同での新臨床研修医歓迎会
- 医学生・研修医等をサポートするための会

2014年度開催 「ワークライフバランスとそれを成功させるコツ」

(和歌山県医師会 主催、日本医師会 共催、和歌山県立医科大学女性医療人支援センター 共催)

■ 研修医レター



和歌山県医師会と協働した女性医師支援(2)

＜採択＞

2014年度～

地域医療総合確保基金を活用した
「医療従事者の確保のための事業」の一環として
“女性医師支援事業”

和歌山県医師会

和歌山県医務課

和歌山県病院協会

和歌山県立医科大学 この4者による協働で開始



和歌山県医師会と協働した女性医師支援(3)

メンター、ロールモデルによる講演・相談

● 女性医師メンター制度 (県の委託事業として和歌山県医師会が実施)

2015年度開始、2016年度継続

女性メンター医師7名登録(大学附属病院と県内の5施設から)

相談件数とその内訳: 82件(調査期間: 2015年10月 - 2016年9月)

育児・介護 27件、復職・転職 15件、再研修 0件、勤務環境・待遇・設備関連 14件、

専門医関連 17件、その他 9件

● 女性医師支援講座 (2010年度に初回)

2016年度開催「～これからの進路を模索中の貴方へ 体験者の話もふまえて～」

(和歌山県医師会 主催、日本医師会 共催、和歌山県立医科大学附属病院 共催)

本学医学部基礎教育棟の講義室で開催

7診療科から、教授と女性医師が発表

■ 女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者、管理者等の講習会

2013-2014年度開催

対象: 県内病院長, 病院開設者, 管理者, 全ての医師、医学生、医療関係者

(和歌山県医師会 主催、日本医師会 共催、和歌山県立医科大学附属病院 共催、和歌山県 後援) 14



現在、 本学医学部が力を入れている支援対象

● 若手(40歳未満)への支援策

✓ 学内助教から助教へ

女性医師の学内助教から助教への昇進の頃(40歳前後)の課題として、子どもの就学

☆学童保育など就学後の親子が活用出来る支援策が今後の課題

✓ 助教から講師へ

● 中間の年齢層、職位への支援策

✓ 講師、准教授の共同研究・国際研究に焦点を当てた研究助成



本学医学部における若手研究者支援(1)

研究遂行・継続のための**能力向上**を支援

1. 共同研究機器・動物実験施設

- ① 共同利用可能な研究機器購入と説明会及び使用支援
- ② 動物実験施設の専門職による説明と実験実施の支援

2. 英文論文執筆・投稿

- ① 臨床研究センターによる英文校正と査読対応支援
- ② 英文での成果公表に焦点を当てた講演会
- ③ 英文論文発表支援(40歳未満全構成員対象に新設予定)

3. 若手による部局横断的な研究体制の構築支援

- ① 特定研究助成(2016年度～准教授以下の研究代表者を支援)



本学医学部における若手研究者支援(2)

研究遂行・継続のための**資金確保**を支援

1. 研究費獲得のための能力開発

- ① 科研費獲得セミナー(How to get 科研費)
- ② 科研費申請書記載の個別相談(メンター)

2. 研究資金助成

- ① 特定研究助成(学内部局横断研究の推進)
2016年度～ 准教授・講師・助教が研究代表者となる研究課題を支援に変更
- ② 若手研究助成(科研費若手研究の審査結果Aが対象)
- ③ 若手研究奨励賞(優れた英文論文を表彰)

課題 大学医学部が求める研究・教育・臨床・組織貢献 と

大学医学部で女性医師支援に必要な要素

(女性) 医療者支援の一環としての
女性医師支援

(若手) 研究者支援の一環としての
女性医師支援

大学附属病院における
(女性) 医療者の
働く環境整備・支援

看護師
臨床検査技師
放射線技師
薬剤師
医師

地域で生活し働く医師

大学医学部における
(若手) 医師の
研究・教育環境整備と支援

博士課程大学院生
大学院研究生 (関連病院勤務医)
学内助教 (非正規)
特任教員 (1年任期)
5年任期付正規職員
(助教、講師、准教授)
教授等管理者

地域社会における
働く医師への支援体制

医師の多様な働き方の容認と環境整備が必要性

■ 医療者としての医師キャリア支援

- ◆ 入学試験選抜段階で**地域枠**を選択した学生への対応
- ◆ 医師の能力向上と**医療の質保証**（新専門医制度等への対応）

■ 研究者としての医師キャリア支援

- ◆ **研究環境と継続性**（大学教員の非正規と生活保障の問題）
- ◆ **研究能力**の開発
 - 英文論文による成果公表能力
 - 科学コミュニケーション能力
 - 競争的研究資金の獲得能力

■ 地域の生活者としてのワーク・ライフ・バランス

- ◆ **働く医師である**ことを辞めない・辞めさせない環境
- ◆ 医師集団における**多様性の受容**と支え合う文化



本学医学部の姿勢

- 華岡青洲先生の内外合一、活物究理の精神
- 初代学長 古武彌四郎先生のお言葉
- 本学医学部のアドミッションポリシー
 1. 科学的探求心と豊かな人間性・高邁な倫理観を有する人
 2. 医学を修得するための幅広い能力を有する人
 3. コミュニケーション能力及びリーダーシップを備えた協調性の高い人
 4. 地域医療に関心があり、国際的視野を有する人

➤ 女性医師支援の姿勢

医療者としても医師研究者としても
臨床においても基礎においても
職種と性別を超えた全医療人支援



総括：和歌山県立医科大学における女性医師支援

- **附属病院を持つ公立大学法人の医学部の特色**
 - ◆ 地域医療体制について、県医師会及び県医務課と密な連携体制があり、**医療者としての女性医師支援事業**で協働
 - ◆ 附属病院においては、先行して構築された看護職への福利厚生システムを活用して、その対象範囲を、他職種（臨床系の医師、薬剤師、検査技師等）や非正規（臨床系の学内助教、初期研修医）に拡大
 - ◆ 県から出向している事務職によって、男女共同参画推進に係る県の施策や事業など、活用可能な資源の紹介や導入

- **地方の公立大学法人の医学部における課題**
 - 医学研究者・大学教員である（女性）医師のニーズと支援
 - （女性）医師のライフイベントと臨床能力開発・維持・向上
 - 地域の保健医療計画と地域枠で入学した（女性）医師支援

平成28年度
「大学医学部・医学会女性支援担当者連絡会」
日本医師会館 2016年12月2日



ご清聴ありがとうございました。



公立大学法人 和歌山県立医科大学 医学部